

一 現代文

- | | | | | |
|----|---------|------|--------|----------|
| 問一 | a 関与 | b 隔 | c ぎんみ | d 投影 |
| | f そんしよく | g 容易 | h 挟（挿） | i まんげきよう |
| | | | | j 憎 |
| | | | | e めんみつ |

問二 流動する現象世界を言語ごとの仕方分割し概念化して体系化すること。

問三 世界はさまざまな印象の変転きわまりない流れとしてあるため、言語によって分割し意味づけないとその世界を認識できないから。

問四 人間の認識や思考は言語と不可分であるため、言語による世界の切り分け方が大きく異なるホピ語と標準西洋言語では、互いに認識や思考を置き換えることができないから。

問五 ア

問六 言語学者や人類学者がフィールドワークの中で様々な言語を調査し、人の思考と言語は切り離せないとするウォーフ仮説の是非を問うてきたが、認知心理学者は実験によって、認識における言語の影響の現れ方に注目するようになった。

問七 ウォーフの「心」は言語体系とほぼ同じで言語ごとに異なるものだが、ロッシユの「心」は言語から独立しており人類に共通するものである。

問八 人の色の感じ方は言語にかかわりなく共通で、典型的な赤や青などは、どの言語を話す人にとっても最も目立つ「典型色」としてはっきり区別される。

問九 ことばがあると、ものの認識をことばのカテゴリーの方に引き寄せて、歪ませてしまうことになるということ。

問十 ウォーフは言語が違えば世界の分割の仕方が変わり思考の違いが生まれると考えたが、その違いは本質的なものではなく、外界に明確に知覚可能な区切りが存在する場合には、様々な言語に共通の傾向が強くなり、それを理解することは重要である。

㊦ 古文

問一 ア 期待して心ひかれ イ いじわるく ウ 多くの エ さつそく

問二 藤原道長の、藤原行成が書く準備が整ったのにまだ参上しない藤原公任の到着を、ますます落ち着かずに待っている様子。

問三 出来ばえのしっかりしていない私の和歌が書かれたとしたら、末長い不名誉であるでしょう。

問四 「藤の花」を「紫の雲」に見立てて、彰子が中宮になることを予感させるとともに、「藤の花」を藤原氏の象徴として、藤原道長一族のさらなる繁栄を祝う内容としている点に、大声で褒め称えて反応した。

問五 藤原公任の、自分の詠んだ和歌が藤原道長や周囲の人に高く評価されたとわかり、ほっと安堵する気持ち。

問六 助動詞 打消当然 連体形

問七 c

三 漢文

問一 a ゆき b もし c いはゆる(いわゆる)

問二 廬江王のような非道な人物が、どうして滅びないことがあるうか。

問三 郭の君主は善いことを善いことだと判断したもののそれを実行することができず、悪いことを悪いことだと判断したもののそれを除去することができませんでした。

問四 びじんをしてそのしんぞくにかへらしむ(びじんをしてそのしんぞくにかえらしむ)。

問五 ① 廬江王が人を殺してその妻を奪い取ったこと。

② 人を殺してその妻を奪い取った廬江王の行いを非難しながら、自らも廬江王を滅ぼしてその妻を自分のものにするという同じ過ちを犯しているのに、それに気付いていない太宗の言動。